

---

# 六道書店

旧太郎とその仲間たち

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

六道書店

### 【Nコード】

N2225F

### 【作者名】

旧太郎とその仲間たち

### 【あらすじ】

六道書店でアルバイトをしている『杉村』&『江藤』が、開店前  
の本の整理途中、様々な本を紹介していくエンターテイメント(?)

# イン・ザ・プール(前書き)

ト書きです。

## イン・ザ・プール

杉村「本の整理って面倒だな……しかも開店前」

江藤「そう言うなよ。客が元通り直してくれないんだから」

杉村「客来なくていいよ……」

江藤「ひでえこと言うなよ」

杉村「暇だから、ちょっと本を紹介して行きまーす！」

江藤「は？なにそれ？」

杉村「暇だろ？お前も」

江藤「まあ…正直な」

杉村「いいの紹介してやるよ。ちょっとまってる」

江藤「いいのかよ」

杉村「いいんだよ」

杉村「これだ」

江藤「ん？イン・ザ・プール？」

杉村「奥田英朗さんの作品だ」

江藤「どんな内容？」

杉村「読め」

江藤「えええ！読むのかよ！」

伊良部一郎という精神科医の元で起こる前代未聞の体験。訪れる人々も変だが、治療する医者の方がもっと変。はたしてコイツは名医か、ヤブ医者か？

江藤「おもしろそうだな」

杉村「だろ？コメディだからな」

杉村「とにかく医者、患者、両方個性的でオモシロイ！」

江藤「で、結局コイツは名医なのか？」

杉村「俺もわからん。これはシリーズものだからな」

江藤「続きがあるのか？」

杉村「この続きが直木賞とつたんだ」

江藤「へえ」

杉村「くるぞ」

江藤「なにが？」

杉村「客の野郎が」

江藤「嫌な言いかたすんなあ」

江藤「よし、開店」

おとうさんがいっぱい

杉村「はい。さっそく紹介するぜ」

江藤「今日もかよ。てか整理どっすするよ」

杉村「後ででいいじゃん」

杉村「今から紹介する本はやべえよ」

江藤「ほう」

杉村「世にも奇妙な物語に出してもいいんじゃないかねえのかってぐらいのノリだぜ」

江藤「やべえな」

杉村「やべえやべえ」

杉村「あるかどうか分からんけど……」

杉村「お！あつたあつた。って、整理してんじゃないやねえよ」

江藤「なんだ。ねえかと思つたよ」

杉村「これだ」

江藤「……おとうさんがいっぱい？」

江藤「題名からしてやべえな」

杉村「やべえやべえ」

杉村「三田村信行さんの児童文学作品だ」

江藤「へえ」

表題作『おとうさんがいっぱい』をはじめ、『ゆめであいまじょう』、『どこへもゆけない道』、『ぼくは5階で』、『かべは知っていた』などの、5つの背筋が思わず氷ってしまう奇妙な物語

杉村「題名にもなってる、『おとうさんがいっぱい』は奇妙すぎる」

杉村「てか、すべてが奇妙すぎる」

江藤「すべて？」

杉村「しかも『ハッピーエンド』って言葉がない」

江藤「ぜんぶアンハッピー!？」

杉村「しかも全部トラウマになったり、鬱になる……」

江藤「……児童文学だろ？」

杉村「容赦ねえぜ……」



江藤「あああ！」

杉村「うおお！！びっくりした」

江藤「時間だぞ！」

杉村「やべえ！整理やってねえ！」

江藤「ああ、もう、開店だ！」

## 最終兵器彼女

杉村「今日は俺が紹介する」

江藤「今日もじゃなくて？」

杉村「細かいことは気にするな」

杉村「これ」

江藤「最終兵器彼女」

杉村「知ってんのか？」

江藤「知ってる。結構な名作だぞ」

杉村「なんだよ…知ってんのかよ……」

江藤「おいおい紹介終わりかよ」

杉村「終わったら作者さんに迷惑だから紹介させてもらっぜ」

杉村「今俺の手元にあるのが1巻」

杉村「そして、お前の手元にあるのが残りの全巻」

江藤「え？ねえけど……」

杉村「あれ？お前の持っているの2〜7巻しかねえじゃねえか。1巻

はどっこに……」

江藤「いや、俺持ってねえし。てか1巻お前が持ってんじゃねえか」

杉村「あ、ほんとだ」

江藤「しょーもないポケはいらねえから、早く紹介してくれ」

杉村「わかった、わかった」

杉村「まあ、これは生涯一度は読んでおきたい本だ」

江藤「そんなんか？」

杉村「そんなんだ」

ぎこちない『彼氏』『彼女』としての付き合いを始めるシュウジとちせ。そんなとき、突然札幌が空爆されてしまう。そこでシュウジが見たのは、兵器として変わり果てた『彼女』のすがただった

江藤「とんでもねえ状況になってるな」

杉村「抵抗感じるかもしれないけど、読んでみると泣けるらしいぞ」

江藤「たしか、外伝とかも発売してたな」

杉村「アニメ・映画・小説と進化してきた名作だ」

杉村「今日、俺はこれを買う」

江藤「おっと。その前に仕事だ」

杉村「じゃあ」

江藤「開店」

## 死刑囚042

江藤「今回は俺が紹介するぜ」

杉村「おお！お前本とか知ってんのか？」

江藤「当たり前だ。お前よりは知っている自信はある」

杉村「生意気いうじゃねえか。紹介できんのか？」

江藤「もちろん」

江藤「これだ。紹介する本は」

杉村「ん…？えっと、死刑囚042？」

江藤「読めたのか…」

杉村「読めるわ！」

江藤「小手川ゆあさんの作品だ」

江藤「考えさせられるぞ。これは」

杉村「お前にぴったりだな」

江藤「どうゆう意味だ？てめえ」

死刑制度廃止を検討している政府は、死刑囚042号＝田島良平

を使って、ある実験を開始した。彼は脳の破壊活動を司る部位にチップを埋め込まれ、とある公立高校に派遣される。彼の興奮が殺人を犯してしまうほどに達すると、チップが爆発して脳を破壊するのだ。実験の研究スタッフや、高校の人々との出会いを通じて変わっていく主人公に必見。人間の「生と死」を問う衝撃作

杉村「絵も綺麗だし、興味深い無いようになってるな」

江藤「買ってくれと、作者がうれしい」

杉村「作者かよ」

江藤「あたりまえだ」

江藤「ちなみに、もし自分が頭の中にああゆうチップ入れられたらどうする？」

杉村「狂っちゃうな。いつ爆発するかわかんねえから」

江藤「そうだよなあ。お前はいつも何かと興奮してるからなあ」

杉村「それじゃあ、俺がまるで変態じゃねえかよ」

江藤「はい！開店」

杉村「ええ〜！？なにコレ？」

## 夢十夜

杉村「昨日さ〜…元カノに会ったんだよね」

江藤「へえ〜……」

杉村「で、話変わるけどさ」

江藤「え？変わるのかよ」

杉村「いいんだよ。あんな夜叉のような女」

江藤「夜叉……」

杉村「お前は最近どんな夢を見た？」

江藤「え？……言いたくねえ……」

杉村「ナンデヨ」

江藤「いや、かなり変なんだよな」

杉村「どんな」

江藤「えっと……トイレから出れなくなる夢……」

杉村「まだマシじゃねえか」

江藤「お前はどんな夢を見たんだ？」

杉村「トイレに流される夢」

江藤「大変だな」

杉村「そんな奇妙な夢を見てしまう人にオススメの本がこれだ」

江藤「本当にオススメなのか？」

杉村「たぶんね」

杉村「夏目漱石、夢十夜」

江藤「あの文豪の作品か」

杉村「そうだ。あの文豪だ」

夏目漱石の隠れた名作と言われる「夢十夜」は油断すると眠れなくなる10篇の短編集。漱石らしいホラーじみた作品と言えるだろう

杉村「……終わった」

江藤「なにが？」

杉村「あーあ、俺今日、夜眠れん」

江藤「もう、読み終わったのか」

杉村「1篇だけね」



江藤「いきなり!？」

杉村「ホラーだからな」

江藤「それが理由にしても、いきなりすぎねえか？」

杉村「まあとにかく、お前も読んでみるよ」

江藤「時間ねえし」

杉村「じゃあ、あれか。言っても開かない言葉」

江藤「開店？」

杉村「そう」

江藤「ありゃ、『しめ』だ」

杉村「しめ？」

江藤「どう終わればいいのかわからんからな」

杉村「ああ、いわゆる手抜きか」

江藤「まあとにかく」

江藤「開店」



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2225f/>

---

六道書店

2010年11月9日05時35分発行